

### 舞台の上でも下でもかがやく 臨川フェスティバル

校長 佐伯 孝司

臨川フェスティバル(学芸会)の児童鑑賞日。演技を終えて座席に戻った1年生は、満面の笑み。



「孫悟空」を演じ  
終わった1年生に  
声を掛ける6年生

そこへ、もっと笑いっぱいの6年生が駆け寄ってきます。6年生は、「上手だったよ」「おもしろかった」「すごいね」… いろんな言葉で、1年生のよさを表し、一生懸命に伝えてくれます。休憩時間にも、そんな心温まる光景が広がっていました。

児童が話し合っただけで決めた臨川フェスティバルのスローガン「かがやけ！ 一人一人が協力して 臨川の幕を開けよう」のとおり、輝く児童の姿が見られたのも、皆様のおかげです。ご協力ありがとうございました。

台本を理解し、よく考え工夫したセリフや動作、考えたことを実行し表現する演技、考えを共有し練り上げた話合いや練習、アドバイスや励ましの声掛け、粘り強くよりよい舞台をつくらうと力を合わせる児童の姿。輝く児童、新しい希望につながるような幕開けの瞬間。舞台を共に作りながら大切なことを学んでいる児童たちの成長していく様子がよく分かり、感動しました。

輝く姿は舞台上だけではありません。児童鑑賞日は、舞台の児童と客席の児童が相互によさを引き出していました。舞台の児童の心のこもった表現、楽しそうに躍動する表現に、客席の児童は拍手、手拍子、スマイルで応えます。その反応がまた舞台の児童の表現力を引き出し、さらに大きな拍手が響きます。特に、後



鑑賞後「よかったねカード」で感想を交流



演技を終えて退場するつくし学級の友達に大きな拍手を送る児童たち

方に座っていた高学年の児童が、手拍子や拍手をリードし、会場の一体感をつくり上げてくれました。この姿も「自分にできること」を考え、行動に移す力を発揮してくれたものと捉えています。

2日目に来場していた臨川幼稚園の園児たちも、会場の雰囲気に引き込まれながら、最後まで楽しそうに鑑賞していました。先日、園児たちは5年生児童と「あやとり」で交流活動を行っていたので、出演する5年生児童に手を振って応援する様子も見られました。5年生は、午前の最後に出演した2年生が給食の用意や着替えの時間をつくれるようにと、2年生の教室まで椅子を運んでくれるなど、誰かのためにできることをすすんで行う姿がまた輝いていました。

保護者の皆様も、カメラを構えながらも拍手の音を響かせ伝えようとしてくださる様子など、本当にありがたく思います。当日を迎えるまでのご家庭のご協力にも感謝申し上げます。

今回は、地域学校協働活動推進員を通じて募ったスタッフ・ボランティアの皆様が、照明や大道具などの役割を担って下さいました。学校における教育活動に対し、こうしたご協力により、一層充実したものにすることができると改めて実感しました。輝く児童にスポットを当てたり、児童が集中して力を発揮できるように支えてくださったりするだけでなく、お陰様で、教員が児童のそばにいて支えたり指導したりする場面をより多く作り出すことができました。感染症対策を講じながらも、児童が生き生きと表現できるよう、教員が演出・指導することにつながっていると思います。

舞台の上で輝く児童たち。その一方で、舞台の下でも様々な人が輝く様子が見られました。これからの臨川の幕を開けてくれたその姿を、胸に刻んだ3日間でした。



2年生の椅子を運んでくれる5年生



12月1日で145歳!